

いかと話が出て、この友情によって出来たのがロータリーであると歴史に書いてあります。とにかく孤独ということ、これは皆様も実業家のトップに立っている方々、事業をやっているあるいは専門の技術者例えば医者でも聴診器を当てて患者をみる時には、医者には知らない誰も判らない判断力が必要であります。実業家も同じことでもあります。自分の事業に総責任を負っているという孤独性があります。戦場においても同じことでもあります。やはり、孤独というものが、あることによって、その孤独性を分かち合えることが来る。これがロータリーの原点であります。しかし、あつという間にその年に30人になりそして1907年には何かしようじゃないかということで、シカゴの市の近くに公衆便所を寄付したのが社会奉仕の始めだと言われております。その前では、お互い30人が各々洋服屋はポールに買ってもらい、鉾山技師はポールに弁護してもらって山を開発したりしていた。お互いの職業を理解しながら職業を通じ助け合った。これが職業奉仕であり第一のものであります。その次が、今の社会奉仕。やがて1910年になりますと、全米で1,500人となった。やがて、ポールが米国だけでは困るといって、カナダのある地域にもクラブが出来ました。これが国際奉仕の始まりだと言われています。集団が大きくなりますと、そこにルールをつくり、組織をつくり、リーダーが組織の中から生まれて来ます。その組織のリーダーが輪番性となっています。私がガバナーに就任したときは、161ヶ国で3ヶ国増えて164ヶ国となっています。会員も1,505千人の大きな国際組織となっています。どうして、ここまで83年の歴史が続いて来たのでしょうか。戦争もありました。それは、この輪番性によって、新しい会長が新しい創意と英知を加えて改良してきたからであります。だから止まざる進歩が続いて来たということが言えるのではないのでしょうか。私も一年であります。来年は又来年のガバナーの考え方で進化するでしょう。三条北クラブは、今年は梨本会長を中心として今年度の実績は上がりますでしょうし、来年は平松さんが会長になられて又、進化するでしょう。こうして、リーダーが代ることによってロータリークラブの進化があったものと私は判断できるのであります。いよいよ、ペンシルベニア州のフィラディアフィアに行きました。ここは、京都や札幌のように、都市計画が立派につくられた町であります。イギリスから流刑されたというウィリアム・ペンという非常に利口な人が当時乱れていた地域を現住民と手を繋ぐことによって開発された町であります。従って、フィラデルフィアは、ギリシャ語で兄弟という名前だそうでありまして、いわゆる現住民と流刑の外部から入って来た人たちが兄弟のようにして手を繋いだからこそ町が出来たということでありまして、ペンの銅像が50mの高さの所に立っております。最近までは、これより高い建物はつくる事が出来なかったそうであります。こんな町にあるペンシルベニア大学で会議が開かれましたが、この大学は日本と深い因縁があります。野口英世がここで研究し、立派な実績を残している大学なのであります。真中にあるセンターホールという大きな会場で大会が催されました。当初、大会の委員会では大きな建物で25,000人位は来てくれるだろうと甘い予測をたてたのでありますが、実際の登録人員は、16,300人を若干切れる人でありました。従って、25,000人という予測のため、各国から参加する者を昼の部と夜の部の半分に分けておりました。私は夜の部に参加いたしました。昨年までは、日本のガバナーは一ヶ所に塊って入ったそうありますが、今年のSAAは厳しくて、入口まで行きますと、どんどん中の空席の所へ連

芦田義重君 梶内ガバナーの公式訪問と板内康男君の入会を記念して!!

鈴木英友君 梶内ガバナーを歓迎して。

白崎哲男君 梶内ガバナーの公式訪問を記念して。

村山誠一君 梶内ガバナー公式訪問を記念して。

杉本勝昭君 梶内ガバナー公式訪問を記念して。

佐藤義英君 梶内ガバナー公式訪問を記念して。

早川滝雄君 梶内ガバナーの公式訪問を記念して。

斎藤正君 梶内ガバナーの公式訪問をお天気と共に心から歓迎申し上げます。

河井増雄君 梶内ガバナーようこそ当クラブにおいでいただきました。

角田宏衛君 梶内ガバナーの来条を記念して。

山上茂夫君 三条市社会教育協会講演会はお陰様で多数の皆様の御参加をいただきました。有難うございました御礼申し上げます。

卓 話：梶内悌三郎ガバナー



今日は、76回目の公式訪問であります。新潟第4分区では、明日の本家の三条クラブを除いて、7クラブを吉井分区代理に案内して頂きました。皆様方のご精進の賜物で、今日は師走の中旬にもかかわらず大変よい天気であります。分区代理、会長および幹事さんの方々、駅までお迎えに来て下さいまして厚くお礼申し上げます。当クラブは創立2年、私もチャーターナイトに参加させて頂きましたが、このように大勢の会員になり、又、何か雰囲気が活力に満ちているように感じられ、ガバナーとして光栄に耐えない次第であります。私はこの機会に御礼を申し上げなければなりません。特に、寺る10月15日、16日の年次大会において大勢の皆様方のご参加を頂きまして厚く御礼申し上げます。私は、この大会にいささか心配事がありました。一つは、陛下のご病状の問題。幸いに無事ご経過を頂きまして安堵いたしました。一つは、R・I会長代理にどんな人が来るだろうかという問題。通訳がいるんじゃないかと心配しましたが、幸いにもソン・エン・ソウ（宋）さんという来年の国際大会の委員長という方であり、しかも日本の大蔵大臣にあたる財務長官をやられ、又、ベルギーの大使もやられ、又、ヨーロッパ方面の大使の総元締めもやられた人であります。経済人でもあり、親日家であり、日本の文学にもきわめて明るい方であります。古賀正男の歌も大変上手で、メロディーも心得ておられました。川端康成のトンネルをこえと雪国といった話も出されました。日本食も大変お好きで、おにぎりを大変喜んで食べられました。非常に親密感のある方でほっといたしました。皆様のお陰をもちまして、非常に高く評価して頂きました。8と9と256地区のR・I会長代理として来られましたが、神奈川県地区は非常に規模も大きく、金のかかった大会であったそうですが、この256地区の皆様はハートが深く、

非常に親功であるという評価を頂きまして、しかも活力に満ちていると高く評価して頂きましたことを皆様方にご報告申し上げ厚くお礼申し上げます次第であります。もう一つの心配は天候でありました。これも、まああの無事の天候でありました。ところで、一昨年の10月26日の三条における大会におきましてガバナーノミニーという称号を頂きました。このことにつきましても、皆様方のご友情に対して厚くお礼を申し上げます次第ですが、何よりもお世話になりましたのは、本日お見えになっておられる山本幹事さん、当時の副幹事であった梨本会長さん、又、それぞれ皆様よりガバナー事務所として、ガバナーとして藤田先輩はじめ皆様方より大変なご指導を頂き、私が就任して問題となった事務所のことについて、直前ガバナーに直接指導を受けるべきものを、身近ということで大変お世話になりました。今日まで、どうにかスムーズに仕事を進めさせてくれたことは、ひとえに三条の皆様方のご指導のお陰と厚くお礼申し上げます次第であります。以上、まずお礼申し上げて、次に私もノミニーという役職を頂きましてから1年7ヶ月飲みニー飲みニーと各所にお伴いたしましてご馳走になり、お酒をたくさん頂戴し、多くの友達に出会う機会を頂きました。そして、5月に国際大会に参加して、皆様方より頂きました信任状を提出して、今度はエレクトという称号を頂きました。そして、7月1日から安藤直前ガバナーから申し受けを頂きまして、ようやくガバナーということで、7月5日から群馬県の安中クラブを最初として今日で76クラブ、あと余すところ3つということになりました。79クラブありますので、当初私の体力、能力、その他からいって危惧するところがありました。皆様方の温かい友情によりましてここまで出来ました。明日は新発田よりちょっと早かった双子の三条クラブでありますので、ちょっと気をくづしてお邪魔させて頂こうと思っております。さて、私はガバナーとして各所を廻って皆様にお話し申し上げている訳であります。元来、私は昭和17年軍隊から帰ってきたものですから気性も荒く、その後まもなく父も亡くなって、以来、新発田に住みついております。従って、新発田方言が時々出ますし、又、年のせいで、総入れ歯のため、歯切れが悪く、聞きづらと思います。私の話にしばらくお耳をお貸し頂きたいと思う次第であります。私は、2月20から28日まで、テネシー州ナッシュビルの国際協議会に行き参りました。この協議会は、ノミニーの一番最大のハードなスケジュールの中での勉強をさせられる機会でありました。ご承知のように、ナッシュビルは人口約100万人弱で、南10km下ったところにプレアンプホテルという大きなホテルがあり、敷地147千坪もあり、大きなホールが2つ真ん中にあり、その周囲をロビーでつなぎ、その先に3階建のホテルがあるという形態となっている建物であります。ここで、毎朝まず全体会議が8時30分から1時間開かれるのであります。入口に「Into Learn」、裏側に「Go Force To Service」「入りて学び」「出ては奉仕に邁進せよ」とあり、朝と午後と最後に全体会議の出入のたびに、これが目に付くのであります。勉強して、勉強したら奉仕せよということが、いまだに私の頭から抜けないのであります。朝の全体会議が終りますと、それぞれ25～26名位の単位で、リーダーから教を受けます。日本は、29地区に分かれている訳でその中には、元大学学長、大きなホテルのオーナーとか多種の方々がおられ、部屋に入りますと、小学校の生徒と同じで、どんな偉い人でも、どんなお金持ちでも、私はロータリー歴30年近いものですから割合、その中に入りましてもロータリアンらしくおられたのが私の幸せでありました。ここで、とにかく、ビッシリと教育を受けるのですが、本当にハ

ードなスケジュールでありまして、午前と午後は皆、部屋が変わります。厚い書や厚い書類を持って、50mを行ったり来たりするため、これも体力的に大変でした。徹底的に手続要覧等の説明を受けましたが、要するに2つの責務が課せられました。まず、今年度の12の重点目標が示されました。今年度のR・I会長のロイス・アビーはオーストラリア出身で、かならずしも裕富な事業の出ではなく、叩き上げの実業家であり、地味な人であります。昨年のチャールズとC・ケラーは8つのターゲットを出し、このうちいくつをやれば表彰すると言っていたましたが、今年度のロイス・アビーはこれは当然ロータリアンとしてやるべきことであるから、甲乙つけがたい。従って、表彰しません。これについて、私どもはもっともだと思い大いに拍手し、賛成しました。もう一つは、「Put Life Into Rotary—Your Life」「ロータリーに活力を—あなたの活力を」私どもはこれをメッセージと解釈し、過去においては、ターゲットとかテーマと申しておりましたが、私どもの年度ではメッセージとすると発表されました。メッセージとは、大統領教書又は州知事教書という意味であるそうで、最ともふさわしいということになりました。1954年からR・I会長としてのメッセージであるということも報告されました。ロイス・アビー個人の意思でなく、R・I理事会にはかって発表された大きなメッセージであるということなので、私どもはこのメッセージを重く背中に背込まれたのであります。このメッセージのLifeという字は辞書には活力という解釈がありません。通訳が活力という解釈を提示してきたとき、私ども一同は単純明解で大変結構なメッセージであると理解しました。それでも、私どもの同級生は厳しいものがいまして、活力とは何かといいましたが、結局はやる気であるということになりました。そこで、今年度は皆様方に活力即ちやる気を出して頂きたいとお願いして今日まできた次第であります。さて、私はロータリー公式訪問をしなければなりません。活力を何としても皆様に伝えなければなりません。ある時友人に、人生は活力だよと言われ、そう考えたときに、いままでの迷いがいっぺんに消えました。そうだ私自身に活力がなかったら、ガバナーは出来ないんだという反省でした。それが今日まで76クラブを無事に過させて頂いた原因でなかろうかと思えます。先輩のことを申し上げては大変失礼ですが、上野ガバナーは途中で胃を切られ、安藤ガバナーは7kgも痩せたとのことでした。しかし、私自身さっぱり目方が減らないのは、自分自身に活力を持ったということだと思えます。10日15日16日その前の前の日まで某クラブを公式訪問しましたが、その日は雨あられで、朝熱を計りましたら8度3分ありまして、壇上に上りましたら背中から汁が出ました。今ここで倒れたら大変なことになると自分の心を活力だ活力だとムチ打ちながら頑張りました。私は、過去は尊いことだと教えられており、又、現実には厳しいものであると教えられています。どうか、そう意味で活力という言葉の皆様方のどこかにお使い頂けますならば、私の担いできましたお土産が生きてくるのではなかろうかと思うのであります。話は飛びますが、国際大会に望むためにシカゴの町に参りました。シカゴは、ポールハリスの誕生の地でもあり、終焉の地でもあります。彼も、やはり一青年弁護士として、旅に出たのでありますが、その旅の生は極めて至難な生活でありました。再び郷里に帰って来たときは、シカゴは乱雑な状態であった。政治も経済も、文化も治安も極めて乱雑な時代でありました。ある冬枯れの寒い晩1905年2月23日となっております。この日、彼は孤独に耐え日頃友情を深めたいと思っている同志、石炭屋、洋服屋、鉾山技師の5人でこれからこの孤独を分かち合おうじゃな